

大山の特産スイカを守れ！ 大山小学校×獣害対策

丹波篠山市立大山小学校では、毎年5、6年生がふるさと学習として大山地区の特産品である「大山のスイカ」の栽培に取り組んでいます。

しかし、昨年度はほとんど収穫できませんでした。原因はアライグマ、カラス、ハクビシンなどによる鳥獣害です。そこで、今年度はみんなでおいしいスイカを食べたいと、学校を挙げて獣害対策に取り組みました。

獣害対策を教わったのは、市役所農都整備課と、NPO法人地里山問題研究所の代表理事、鈴木克哉さん。鈴木さんのご協力のもと、小学生が自分たちで自動撮影カメラを仕掛け、映った野生動物と獣害対策について学んだり、防護柵などの設置を実施したりしました。

そして、ときどきわくわくしながら迎えた収穫日。なんと、今年は野生動物による被害をゼロに抑えることに成功！さらには、小学生たちが獣害から守ったこのスイカ

力が、地域のお祭りである「ふれあい市場スイカ祭り」で、自治会長会会長賞と特別賞を受賞。甘くみずみずしい、最高のスイカでした。

大切に育てた作物が野生動物の被害に遭うと、農業者の生産意欲は大きく減退してしまいます。しかし、野生動物の生態を知り、地域の特性に合わせた正しい対策を施すことで、獣害は確実に防ぐことができます。獣害対策というと多大な手間と労力が必要だと考えがちですが、今回の小学生の取り組みは、簡易な柵の使用で十分な成果を上げられることを実証してくれました。

このように、獣害対策をきっかけに、生きがいややりがい、地域振興につなげることを「獣害対策」といい、丹波篠山市が独自に取り組んでいるのだそう。

今後は、適切な獣害対策によって実りある農業を営むことができる生産者が増えるよう、期待したいです。

小学校から獣害対策の依頼をいただき、嬉しい反面、子どもたちのためにも絶対に失敗できないというプレッシャーを感じました。防護柵の設置や仕掛けたカメラによる野生動物の学習を通し、獣害対策への理解が深まった子どもたちを頼もしく思います。今後行われる獣害フォーラムでは、小学生たちが今回の取り組みを発表してくれる予定です。獣害は、正しい方法で行うことで、必ず防ぐことができます。小学生でも簡単にできる仕掛けで獣害対策ができるという認識を地域に発信し、大山の特産スイカの栽培を守る活動につなげていってもらえればと思っています。



里地里山問題研究所
鈴木克哉さん

地域おこしのために、なにかよい特産物がないか探していました。もともとスイカがおいしいと有名ではあったけれど、生産農家が減ってきていたので、スイカに目を付けて作り始めました。ハウスではなく外で育ったスイカは、太陽の光を浴びてとても甘くなります。しかし、外で育てるためには獣害対策が必須。鈴木さんの教えのもと行った獣害対策で、今年は見事に被害がありませんでした。これからも、おいしい大山のスイカを守っていくために、組織として力を合わせてがんばっていきたいと思います。



大山振興会
伊勢隆雄さん



センサーカメラで見張り



スイカ収穫♪



柵の電気のビリビリ体験中



柵設置作業

柵の高さは40cm
(中型動物)



獣害対策勉強中



あま〜い!

甘くておいしい
スイカに、みんな
大喜びでした♪

リポーター
みずぐさ えみ
水口映美さん

大山小学校の5、6年生が毎年栽培している大山特産のスイカ。しかし、昨年度はそのほとんどを野生動物に食べられてしまいました。スイカを守れ！と立ち上がった大山の小学生たちの獣害対策。その取り組みを紹介します。

―大山のスイカとは―

丹波篠山の大山地区で採れるスイカで、地元以外ではなかなか手に入らない、地元で愛される隠れた名産です。品種は大玉で、みずみずしく優しい甘さが特徴。毎年夏に、ふれあい市場スイカ祭りが開催されます。

獣害対策についてのお問い合わせはこさくら農都整備課
☎552・1117